【授業科目】コミュニケーション論　　Communication Theory

担　当　教　員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	実務経験	オフィスアワー	教職員への授業公開
大西 信行、松田 陽子	1年次 前　期	必　修	2	30	講義	あり	巻末 掲載	否

授業概要 （内容と進め方） 及び課題に対する ﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ方法	授業概要／コミュニケーションについて基本的な構造を学習する。 実際に演習を実施し、コミュニケーション技術を身につける。また、自分のコミュニケーションの過程を振り返り、自分を知る手がかりにする。そしてよりよいコミュニケーションを作るための効果的な交流を学習できるようにする。 課題に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ方法／毎回振り返り表を学生が記入し、学習状況を把握し、適宜コメントを講義時間内にﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸを行う。
実務経験に関する 授業内容	看護師の臨床経験を持つ教員が、看護師として必要なコミュニケーションの知識ついて、資料・教材を交えながら指導していく科目である。
授業の 位置づけ	本学のディプロマ・ポリシー⑤「将来に向け看護を主体的に学び、人間として自己の成長に努め、専門職としてのキャリアの基礎を形成することができる」の達成に寄与している。
到達目標 （履修者が到達 すべき目標）	①コミュニケーションとは何か、その意味や必要性、重要性について考えることができる。 ②コミュニケーションという人間活動に関する基本的な考え方について理解し、自己を振り返る手がかりが得られる。 ③コミュニケーションの基本的な知識と技術を知り他者との関係を創る基本的な態度を修得する。
時間外学習に必要な学修内容および学習上の助言	第1～8回　学んだ内容を自己の生活の中でどのように適応できるかを振り返る（各30分） 第11～15回　グループワークを振り返り、自己の課題を考え次回のグループワークに生かせるように練習を行う（各30分）。 第9・10回　講義で学んだ内容を自身の生活の中にどのように活かされていきたか、振り返りを行う（各60分）。 ※上記時間については、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間（2単位15回科目の場合：予習+復習4時間／1回）（1単位15回科目の場合：予習+復習1時間／1回）（1単位8回科目の場合：予習+復習4時間／1回）を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

授業計画	
第1回 自己理解・他者理解・コミュニケーションとは ・心のあらわれ、心のなりたち ・コミュニケーションの成り立ち（自分の対話スタイルを知る）演習の進め方	①大西
第2回　コミュニケーションとは 課題提示「共感」、「傾聴」、「承認する」、「アサーション」について各自調べる	②大西、松田
第3～4回　コミュニケーションの技術：共感・質問をする ・相手の気持ちに「共感」する練習（感情エクササイズ） ・相手へ質問する練習（アクセント返し、オウム返し）	③④松田、大西
第5～6回　コミュニケーションの技術：傾聴・「きく」ことの技術 ・相手の話を「きく」・きく練習（相手の話を最後まできく）	⑤⑥大西、松田
第7回　コミュニケーション技術：勇気づける・承認する ・相手を勇気づける・承認する練習	⑦松田
第8回　アサーション ・自分の意見を伝える練習	⑧松田
第9・10回　自己実践・レポート ・共感、傾聴、承認する、アサーションのうちどれかを選択し実践を行う。 ・講義後に実践した内容に沿って、自己の学びをレポートにまとめる	⑨⑩大西、松田
第11～15回　生きる意味と生き方の転換 自己の人間関係、関係の取り方についてグループワークを通して振り返る 関係の停滞、人間関係がうまくいかない場合についても考える。 他者の人生について、芸術、文学、人間活動等から学び、不都合な脚本からの抜け出す方法について学ぶ。	⑪～⑮大西

評価方法 評価基準	演習レポート（第9・10回）50%、課題レポート40%、受講態度10%		
教科書	なし	参考書等	なし
学生への メッセージ	私たちは一日中コミュニケーションして情報をやり取りし、お互いに影響し合ったりしています。コミュニケーションは世界を知る手がかりです。このコミュニケーションの力を高め使えるように一緒に学びましょう。コミュニケーションは生きた世界を扱います。演習に出席して実際に体験することが最も重要です。		